



Data 2026-10

監督：周冠威 (キウイ・チョウ)
 脚本・製作：周冠威、會俊榮 (フェリックス・ツァン)
 出演：劉俊謙 (テレンス・ラウ) / 蔡思韵 (セリシア・チョイ)
 / 鮑起靜 (パウ・ヘイチン)
 / 潘燦良 (ブン・チャンリョウ) / 張滿源 (ケネス・チャン) / 黃嵐 (ウオン・ラム)

👁️👁️ みどころ

2019~2020年に大ヒットした本作がなぜ7年後の今の日本で公開？それを考えると不思議だが、本作では何よりも「幻愛」というタイトルの意味に注目！

近時、発達障害や統合失調症という精神上的の病いが広まっているのはきっと不安な社会のせいだが、他方で“色情狂”という病いはあるの？

主演の劉俊謙 (テレンス・ラウ) が統合失調症の患者、主演の蔡思韵 (セリシア・チョイ) が色情狂の患者 (?) という設定は、問題提起としては面白い。また、そんな両者が第26回香港電影評論學會大獎で、それぞれ最優秀男優賞、最優秀女優賞を受賞したことにビックリ！

それを考えると「幻愛」というタイトルはまさに本作にピッタリだ。さあ、そんな本作の「夢の向こう」には一体何が・・・？

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————

■□■2020年の香港でのヒット作がなぜか今、日本で公開！■□■

2019~2020年に香港で大ヒットした本作が、7年後の2026年2月に日本で公開！その理由は説明されていないが、私が推測するに、①李志樂 (レイ・ジーロック) 役で出演した劉俊謙 (テレンス・ラウ) が、『トワイライト・ウォリアーズ 決戦！九龍城砦』(24年)で大人気を博したため、②周冠威 (キウイ・チョウ) 監督が『十年』(15年)、『時代革命』(21年)で有名になったため (両作とも私は見逃している) だ。

そんな安易な理由 (?) で日本公開されることに私は異論があるが、本作は、新人として主演した劉俊謙も、台湾で演技を学び生まれ故郷の香港に戻って主演した女優・蔡思韵 (セリシア・チョイ) も、共に第26回香港電影評論學會大獎で、それぞれ最優秀男優賞、最優秀女優賞を獲得した作品だから、やはり注目！

■□■冒頭のシーンにビックリ！こりゃスマホでの拡散必至！■□■

本作は、行動の怪しげな中年女性がいきなり街中で服を脱ぎ始めるシーンから始まる。野次馬たちはそれを次々とスマホに撮影し拡散していたが、それを救ったのが、その中年女性が、同じ福祉センターのグループカウンセリングに通う知人であることがわかった李志樂と、縁もゆかりもないのに救いの手を差し伸べた若い女性、欣欣（ヤンヤン）（蔡思韵／セリシア・チョイ）だ。そこで李志樂が欣欣に一目惚れし、さらに欣欣が李志樂と同じ団地に住んでいることがわかると、2人は急速に仲を深めていくことに。なるほど、なるほど……。

■□■統合失調症とは？その症状は？幻覚もその1つ？■□■

あなたは統合失調症という病気を知っている？最近「発達障害」を含む、この手の精神的な原因に基づく病気が多いが、これは複雑で生きていくのが困難になっている現実社会の中に根本的な病原菌があるためだろう。それはともかく、この種の病気は対処が難しく、臨床検査医師による治療の他は、本作に見るようなグループカウンセリング程度しか治療方法がないらしい。

自分自身が統合失調症のため、小学校教師をしながら福祉センターのグループカウンセリングに通っている李志樂は、欣欣に対して悩んだ末に自分の病気を打ち明けたところ、欣欣から「病気でも愛している」の返事もらったから、ラッキー！しかし、統合失調症の症状の1つに幻覚があるのでは？そうすると、ひょっとして……？

■□■蔡思韵は一人二役！李志樂は奇妙な三角関係に？■□■

一人二役が「売り」の映画の代表は、アラン・ドロンの主演『アランドロンのゾロ』（75年）やレオナルド・ディカプリオ主演『仮面の男』（88年）等だが、本作では蔡思韵の一人二役に注目！

導入部に見る同じ団地内で発生する李志樂と欣欣の恋模様注目していると、次は病状の悪化のため教師の職を辞めざるを得なくなった李志樂が、グループカウンセリングに復帰する中で、欣欣と瓜二つの女性、葉嵐（イップ・ラム）（蔡思韵／セリシア・チョイ）の治療を受ける物語になっていくから、アレレ、アレレ。そこでは、葉嵐は心理学を学ぶ大学院生で、李志樂は彼女の研究資料の収集のためにカウンセリングを受ける患者という設定だが、欣欣と葉嵐がこんなに瓜二つなんてことがあり得るの？もし、そうだとしたら、ひょっとして李志樂と欣欣、葉嵐は奇妙な三角関係に……？

■□■葉嵐はどんな女？大学院生と研究者の顔は？裏の顔は？■□■

欣欣は酔っぱらうと見境もなく暴力を振るう父親の面倒を見ながら、父親と二人暮らしをしている女性だから、自分に愛を向ける李志樂を一途に愛していたのは当然だ。

それに対して、葉嵐にとっての李志樂は、あくまで大学院を卒業して臨床検査医師になるための論文を完成させるための素材だ。

葉嵐の担任教授たる馮（フォン）博士（鮑起靜／パウ・ヘイチン）は、真面目で優秀な葉嵐の姿勢を評価していたが、資料整理のためのバイト募集をしていたサイモン教授（潘燦良／ブン・チャンリョン）に対して、葉嵐が若い女性の魅力を誇示しながら誘惑する姿

を見てみると、アレレ、アレレ……。今ドキの香港の女子院生の“性の乱れ(?)”はここまで進んでいるの？私の学生時代には到底考えられなかったことだが……。

■□■葉嵐は色情狂？葉嵐の赤裸々な告白にビックリ！■□■

医学上「色情狂」なる病気があるのかどうかは知らないが、小説の上ではたまにそのような“病気”を持った女性が登場する。しかし、一見真面目な大学院生たる葉嵐がサイモン教授に見せる態度は一種の色情狂……。李志樂と欣欣、葉嵐との三角関係に加えて、葉嵐の色情狂のようなストーリーが登場してくると、アレレ、アレレと思ってしまうのは当然だ。したがって、葉嵐とサイモン教授との関係が李志樂にバレてしまった後、葉嵐が幼い頃に受けた母親からの虐待が原因で誰からも愛されないと思い込み、男女関係をうまく築くことができなくなったこと、そのため、まるで息をするように、自分に対する男性の行為を利用して生きてきたこと、その結果、李志樂に惹かれながらも彼女は、自分を手助けしてくれる大学教授サイモンとも肉体関係を持ってしまった、と李志樂に対して告白する姿にビックリ！

本作の脚本を書き、監督した周冠威は、パンフレット「Director's Interview」の中で、「本作のストーリーを思いついたきっかけ」について、「脚本を書き始めた時、私はちょうど失恋したばかりでした。恋愛は難しいと思いつつも、心の中では愛を渴望している。精神疾患を持つ人々が抱くこうした心理に、私は共感を覚えました。」と語った上で、さまざまな問題提起をしている。それを讀むと、上記の一見アレレと思うストーリー展開にも、なるほど、なるほど……。？

■□■葉嵐の選択は？李志樂の選択は？本作の結末は？■□■

弁護士には、医者と同じように厳しい職業上の“倫理規範”が課せられている。その1つは、依頼者(患者)とはあくまで仕事上の関係に徹し、個人的な恋愛感情の対象としないことだ。それくらいのことは近い将来臨床検査医師になることを目指して、今は大学院での論文完成を目指している葉嵐も分かっているはずだが、上記のように自分の病い(?)を赤裸々に告白した葉嵐は、その後一気に李志樂との恋愛モードに入っていくので、本作後半からクライマックスにかけてはそれに注目！しかし、それが大学院内で問題とされたのは当然だ。しかし、馮教授を中心とする査問委員会が彼女の退学をめぐって出した条件とは？

さあそこで、葉嵐は臨床検査医師を目指す大学院生としての生き方を選択するの？それとも李志樂との恋を選択するの？それに対する李志樂の対応は？さらに本作の結末は？

それらはすべてあなた自身の目でしっかり確認してほしいが、結論として私の目には本作はイマイチ……。

2026 (令和8) 年2月27日記